

令和6年度第2回 大和市文化財保護審議会 会議録

日時：令和7年2月20日(木)
午後 1 時 00分～3時00分
シリウス6階 606小会議室

出席者等(敬称略)

委員 (4名)	◎金子 皓彦、○鈴木 通大、坂本 要、神崎 直美 (欠席：田中 徳久)
事務局 (2名)	市史・文化財係長、市史・文化財係職員1名
傍聴者	なし

◎…会長 ○…職務代理者

公開・非公開の状況

■公開 □非公開 □一部非公開

会議次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1)令和6年度郷土民家園指定管理事業の報告について 資料1
 - (2)令和6年度文化財保護事業の報告について 資料2
- 3 その他
- 4 閉会

会議要旨

- 2 議事
 - (1)令和6年度郷土民家園指定管理事業の報告について
事務局が作成した事業報告(概要)資料1-1、指定管理者が作成した事業報告資料1-2～4
について質疑応答。
令和6年度の来園者数は、令和5年度に比して若干増加した。昨年度の反省点を踏まえて、
広報活動や開園30周年記念事業に力を入れた成果であろう。今回の聴取事項をもとに、
当該年度の指定管理業務の管理運営状況の評価をおこなう。
 - (2)令和6年度文化財保護事業の報告について
事務局が作成した事業報告資料2について質疑応答。
少ない人員で手広く事業をやっている。委員の意見を参考にして、次年度も事業にあたって
もらいたい。

3 その他

○市指定重要無形民俗文化財「福田神社囃子獅子舞」の道具調査について

道具も有形文化財として指定する価値がある。文化財的価値をより明らかにするためには、道具の全点調査を実施するのと併せて、市内に残るお囃子、獅子舞の悉皆調査が必要である。

○未指定の無形民俗文化財「上和田ジャンジャン講」の休止について

子どもが集落を巡回する行事は、全国的に小正月に実施する例がほとんどであり、ジャンジャンのように盆に実施するのは非常に珍しい。形を変えてでも継続できるよう、今後も働きかけをしてほしい。

発言要旨

(□委員 △事務局)

2 議事

(1)令和6年度郷土民家園指定管理事業の報告について

事務局より、令和6年度郷土民家園指定管理事業の報告資料1について説明。

【総括】

□限られた予算と人員の中で、既存の事業だけでなく、新規事業の開拓にも取り組んでおりよく頑張っている。若い世代の力を積極的に取り入れて、未来へ繋げていけるような事業の発展を期待している。

事務局にはただいまの委員の意見を集約して、来年度におこなう指定管理施設の管理運営状況の評価用の資料を作成してもらいたい。

【来園者数の推移について】

△今年度の来園者数は、2月、3月が昨年度並みであった場合、増加する見込みである。

事業ごとの来園者数についても、昨年度よりも全体的に増加している。特に民家園まつり、機織り実演、ヨーカザーの目籠飾り展示実施時の来園者数が増加している。

□横浜の国際園芸博覧会と連携はできないか。

△園芸博覧会との連携という意味であれば、市として連絡協議会に入っており、しらかしのいえ・泉の森を管理しているみどり公園課が関わっているはずである。しらかしのいえや泉の森が博覧会と連携することで人流を作り出せるのであれば、郷土民家園としてもその流れにのる仕組みを検討したい。

【団体見学について】

- △今年度は、昨年に比べ団体による見学も増加している。特に、市内小学校の見学が増加しており、3年生の「昔の暮らし」の単元で利用されている様子がうかがえる。
- 市内の利用が増えてきたのは良いことだが、市外でも大和市に近い座間市や相模原市の南側の学校などは利用圏内であるため、まだまだ広報する価値があるのではないか。周辺市への広報も考えてほしい。
- 民家園等へ来園しない学校については、どのような授業をしているのか。各学校で副読本を用いて民具の紹介などを行っているのか。
- △実際に各学校でどのような授業を展開されているかは把握していないが、大和市教育委員会で社会科の副読本を刊行しており、その中で昔の道具や生活について紹介している。
- 道具の使い方を知らない人が増えているので、実際に動かしているところを見るためにも団体見学は積極的に活用してほしい。
- △昨年度は実績がなかったが、今年度は学校への出前授業という形で、民具を持参して実際に見て、触ってもらう機会を設けることができた。授業中に穀物の脱穀などの実演はできないため、郷土民家園での実演事業を紹介した。今後も、授業を通じて民家園を周知することで、民家園の利用を促せるような取り組みを検討する。

【見学ワークシートについて】

- △園内で配布しているワークシートは、旧小川家版と旧北島家版があるが、旧北島家のシートのほうが多く持ち帰られている。持ち帰り数に差がある理由は不明である。
- 順路および置き場所によって差があるのではないか。ワークシートに番号を振ることで、複数あることが認知されれば、両方持ち帰ってもらえるのではないか。実験的に取り組んでみてほしい。
- △指定管理者へ提案する。

【広報活動について】

- 広報方法について、駅にもポスターは貼っているか。
- △現状では、正式に駅には依頼していない。今後検討する。

【郷土民家園開園30周年記念事業について】

- △開園30周年を記念してスタンプラリーを実施した。1年間を5時期に区切り、各期間中に来園されると1つスタンプを獲得でき、年間で3つ以上のスタンプを集めると景品がもらえるもの。スタンプの台紙には年間の事業予定を記載したため、台紙があれば事業予定を確認できるという仕掛けも作った。
- また、年間で3種の30周年記念事業をPRするポスターを、代わるがわる市内のPRボードに掲示したことで、民家園の事業を周知する機会にもなった。

【自主事業について】

- △例年実施している「カイコを知ろう」事業では、初の試みとして、カイコ博士と呼ばれる市内の小学生およびシルク博物館の学芸員を講師として招いて実施した。小学生講師の知識の

豊富さに参加者も驚き、大変好評だった。

□小学生による講座は、文化を未来に繋げていくという意味で大変意義深いため、若い方の力を活かす事業はこれからも推進してほしい。「大和の博士ちゃん」などの企画を考えてみても良いのではないか。

△味噌づくり体験も年を重ねるごとに参加者が増加しており、人気講座に育ってきた。

(2)令和6年度文化財保護事業の報告について

事務局より「資料2-1」「令和6年度 文化財保護事業の報告」、「資料2-2」「大和市指定文化財一覧」について説明。

【総括】

□少ない人員で広く事業を実施している。委員の意見を参考にして、来年度も事業にあたってもらいたい。

【天然記念物「ケヤキ(下和田)」の寄附について】

△ケヤキの寄附手続きが全て完了し、来年度に保存用地の整備を開始する。

【下鶴間ふるさと館の公開方法変更について】

△令和 7 年度より、母屋内部の公開を原則月 2 回の公開日に限定し、普段は外観のみの公開に変更する。それに伴い、これまで以上に庭での展示を充実させると同時に、休憩スペースとして利用できるよう、椅子やテーブルの設置などを順次整備していく予定である。

□近隣に寺社があるのを活かして、参拝客らへの広報もしていったらどうか。

△検討する。

【上和田薬王院薬師如来像の年代調査について】

△これまで南北朝時代作とされてきた薬師如来像の制作年代が、平安時代末期にまで遡る可能性が出てきた。詳細は本報告を待ってからになるが、平安時代末期作ということになると、眼病平癒のために和田義盛が祈願した仏像であるという伝説とも整合性がとれ、地元の方にとっても良い知らせとなる。

今後、市内最古の仏像と認められた場合、市の指定有形文化財の候補となる可能性がある。セキュリティの問題などにより、上和田の自治会の方々が指定を望まれない可能性もある。また、修復により像の厚みと色が変わっているため、造像当時の姿に戻すことが望ましいという意見があるため、所有者の意向をしっかりと確認しながら進めていきたい。

□薬師如来だけでなく、「信法寺記録」も指定文化財の候補になり得るのではないか。検討してほしい。

△検討する。

3 その他

【市指定無形民俗文化財・福田神社囃子獅子舞の道具調査について】

△福田神社の囃子獅子舞について、指定解除の要望を受けたことを機に、保存会の現状および道具類の予備調査を実施した。調査の結果、有形民俗文化財として指定する価値があると評価を頂いた。調査を担当された、鈴木委員、坂本委員からご意見を頂戴したい。

□坂本委員：大和市全体として、お囃子の悉皆調査がなされていないため、お囃子および道具類の全体的な位置づけが曖昧である。まずはお囃子の悉皆調査が必要である。

福田神社囃子獅子舞の道具に限定してみると、道具だけでなく、衣装が残されている点が貴重である。特におかめの面や衣装が残されていることが重要である。

□鈴木委員：お囃子が継続されている間に道具類を有形文化財として指定した場合、道具が破損したり紛失したりする恐れがある。指定文化財を使い続ける場合には、代替品を用意するなど工夫が必要である。

△まずは、市内お囃子の悉皆調査および、福田神社囃子獅子舞の道具の全点調査の実施に向けて検討する。

【上和田ジャンジャンについて】

△市の指定文化財には登録されていない上和田のジャンジャンについて、令和7年以降、当番をする 14, 15 歳(数え年)の男子がしばらくいなくなるため、一時中止するという連絡があった。そこで、今年度の実施時に記録映像を撮影させてもらう予定であったが、台風のため中止となった。次にジャンジャンが実施されるのは7～8年後になる予定である。

□当番を従来の講中に限定しない、大人も担ぐなど、これまでのやり方とは変えてでも継続させられないか。子どもが集落を巡回する行事は、全国的に小正月に実施する例がほとんどであり、ジャンジャンのように盆に実施するのは非常に珍しい。形を変えてでも継続できるよう、今後も働きかけをしてほしい。

△昨年、文化財保護指導委員で講中の構成員である方が、新住民や女子を入れて継続できないかということを提案したが、他の構成員から賛同が得られなかったという経緯がある。審議会での意見を伝え、継続の意向を再確認する。

【委員より提案】

□文化財の普及啓発のために、「大和市〇〇百選」のようなものを市民による投票で選んではどうか。数か月のキャンペーンを行い、その後に投票をしてもらうことで、より文化財に対する興味関心を深めてもらいたい。

△検討する。